

<b>■ ■ 授業科目名</b> 個別演習 (山本) Special Seminar	<b>■ ■ 科目区分</b> 専門教育科目						
<b>■ ■ 講義題目</b>	<b>■ ■ 時間割コード</b> 334194						
<b>■ ■ 担当教員</b> 山本 裕[Yamamoto Yu]	<table border="1"> <tr> <td> <b>■ ■ 年度</b>            2013         </td> <td> <b>■ ■ 時間割</b>            通年 木4         </td> </tr> <tr> <td> <b>■ ■ 単位数</b>            4         </td> <td> <b>■ ■ 教室</b> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <b>■ ■ 対象年次及び学科</b>            4～ 経済学部         </td> </tr> </table>	<b>■ ■ 年度</b> 2013	<b>■ ■ 時間割</b> 通年 木4	<b>■ ■ 単位数</b> 4	<b>■ ■ 教室</b>	<b>■ ■ 対象年次及び学科</b> 4～ 経済学部	
<b>■ ■ 年度</b> 2013	<b>■ ■ 時間割</b> 通年 木4						
<b>■ ■ 単位数</b> 4	<b>■ ■ 教室</b>						
<b>■ ■ 対象年次及び学科</b> 4～ 経済学部							

### ■ ■ 関連授業科目

日本社会経済史、近代経済史、経営史、ヨーロッパ社会経済史

### ■ ■ 履修推奨科目

日本社会経済史、近代経済史、経営史、現代韓国・朝鮮研究、アジア経済論、ヨーロッパ社会経済史

### ■ ■ 学習時間

講義90分 × 30回 + 自学自習

### ■ ■ 授業の概要

本演習では、近現代日本社会経済史、近現代日中経済関係史、近現代東アジア関係史について研究を行い、卒業論文を完成させます。  
 演習参加者は個別の研究テーマについて研究を進めていきますが、同時に、他の演習参加者の研究テーマについても我がことのように捉え、議論することを求めます。また、学内の他の演習受講者、本学にとどまらない他大学の日本経済史演習受講者とも研究交流を行い、議論を積み重ねて、受講者各自の学術面にとどまらない成長を期することとします。

### ■ ■ 授業の目的

「授業の概要」欄で述べた如く、近現代日本社会経済史、近現代日中経済関係史、近現代東アジア関係史について研究を行う事を目的とします。  
 上記目的を達成する上で、受講者には、19世紀後半～20世紀中葉までの時代を中心に、日本に軸足を置いて、社会経済の歴史を広義に捉えた上で研究を行うことを要求します。  
 何故ならば、日本経済の歴史の変容を問うのであれば、国民経済・経済政策等のマクロ的領域にとどまらず、産業・企業といったミクロ的領域、近現代日本経済が選択した「積極的」な対外経済進出(=アジアの中の日本経済・日本企業)の歴史の変容をも視野に入れて考察する必要があるからです。また、日本社会の変容を問うのであれば、社会を構成する諸要素(外交や軍事を含む広義の政治、文化、教育、「生ある全てのもの」)の歴史の変容をも視野に入れて考察する必要があります。このような広い問題関心を有した上で、個別の研究テーマを選択して下さい。  
 本演習を受講することで、広い視野から日本経済・社会の歴史の変容を考察する能力が身に付き、広い問題関心を有した上で個別の研究テーマを選択することが可能となり、他の演習参加者の研究テーマについても自らのことのように捉え、議論出来るようになるでしょう。

### ■ ■ 到達目標

1) 日本経済・社会の歴史の変容について、広い視野から考察できるようになる。  
 の広い問題関心を有した上で、個別の研究テーマを選択できるようになる。

2)幅広い問題関心を有し、個別の研究テーマを選択できるようになる。  
3)他の演習参加者の研究テーマについても自らのこのように捉え、議論できるようになる。

## 成績評価の方法と基準

【平成25(2013)年度個別演習単位認定方法】

毎回の個別演習参加状況と取り組み、前期・夏季合宿・夏季研究交流合宿・後期における報告内容等を踏まえて、総合的観点から評価します。

【平成25(2013)年度卒業論文の作成要領と単位認定方針】

執筆する卒業論文については、文字数の上限・下限は設定しません。ただし、「課題と視角」、「先行研究整理」、「本論」を兼ね備え、かつ、社史や自治体史の引き写しにとどまらない、これまでの先行研究に対してわずかであっても、新しい知見を盛り込んだ、オリジナリティのある卒業論文を執筆して下さい。「演習」においては、最低4回の卒業論文に関する報告(前期・夏合宿・夏季交流合宿・後期)を行い、修正・再調査・再検討を経て卒業論文を作成していきます。

## 授業計画並びに授業及び学習の方法

【選考基準】前年に「演習」を受講せず、新たに「個別演習」を受講する場合は、卒業論文の研究計画書の提出を求めます(A4用紙2枚程度)。「研究題目」、「研究テーマ選択理由」、「選択した研究テーマに関する先行研究リスト」、「先行研究リストに記した文献(1点以上)に関する簡単な内容紹介と、同文献で解明された研究内容」を記して下さい。可能であれば、「研究を行う上で用いると思われる資料(『三菱商事社史』等の社史、『香川県史』等の自治体史、統計資料等)」も記して下さい。場合によっては研究計画書で記した研究領域に関する知識等について、口頭試問を行います。その際には、成績表のコピー提出を求めます(成績表を閲覧することで、志望者各自の3年生までの講義への取り組み等を質問します。なお、悪い成績だからといって、それだけで演習履修・受講を認めないということはありません)。また、上記計画書の内容に関する質疑応答も行います。

【春季・夏季合宿】2013年度は、夏合宿(1泊2日。8月開催予定)と、慶應義塾大学経済学部柳沢遊研究会(=ゼミナール)との、夏季研究交流合宿を行います。原則として、全ての合宿へ参加することを要求します(就職活動等の諸事情で参加が不可能な場合は、事前に相談すること)。9月に首都圏で行う研究交流夏合宿では、卒業論文の中間報告をしてもらいます。夏合宿は高松⇄坂出の交通費と宿泊代、夏合宿は高松⇄首都圏間の交通費と滞在費を準備して下さい。

【学内ゼミ交流・ジョイントゼミ】年に1-2回程度、学内のゼミとのジョイントゼミを行います。これらにも積極的な参加を求めます。なお、慶應義塾大学柳沢研究会との研究交流ゼミ合宿については、香川大学経済学部山本裕研究室のHP(<http://www45.atwiki.jp/yuyamamoto/>)で、詳細を確認して下さい。

【講義計画】

本個別演習を受講する上で、次の時限の「演習」も引き続いて受講することを要求します。「演習」・「個別演習」担当者として、両演習を2つの学年の受講者が連続して受講し質疑応答を繰り返すことに高い教育効果が認められると確信するが故に、連続受講を要求します。進級・卒業等の観点から「演習」に参加できない場合は個別に相談しますが、基本的には「個別演習」・「演習」の連続受講しか認めません。

以下のスケジュールで演習を行う予定ですが、受講者の理解や研究の進展等により、変更する可能性があります。

第1回:ガイダンス

第2～第7回:武田晴人『新版 日本経済の事件簿』輪読と質疑応答

第8～第14回:卒業論文第1回報告と夏合宿報告に向けた研究の構想に関する質疑応答

第15回:前期のまとめ(各自が夏休みに従事する研究領域の確認)

第16～第21回:石井寛治編『近代日本流通史』輪読と質疑応答

第22～第24回:学内ゼミとのジョイントゼミに向けた準備作業の報告

第25～第30回:卒業論文第2回報告と卒業論文完成に向けた研究調査内容に関する質疑応答

テキストの輪読については、リポーター以外も精読して、論点を事前に考えておいて下さい。

卒業論文報告においては、リポーターが卒業論文を執筆する上での根幹文献を他の受講者にも事前に配布し、根幹文献のリポートと併せて各自の卒業論文の構想を報告します。聴講者は事前に指定された各文献を精読し、論点を考えた上で参加して下さい。

## 教科書・参考書等

【教科書】武田晴人『新版 日本経済の事件簿』(日本経済評論社、2009年、3000円+TAX)。

【教科書】石井寛治編『近代日本流通史』(東京堂出版、2005年、2800円+TAX)。

【参考書】三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』(東京大学出版会、2010年、2800円+TAX)。

ただし、教科書は教員がまとめて購入し頒布(販売)することとしますので事前に用意しなくて大丈夫です。参考書は、必要に応じて購入をお願いする可能性があります。購入しないで済む可能性もあります。

## オフィスアワー

木曜日6・7時限。また、メールにて事前連絡してもらえれば、随時対応します。

## 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

執筆する卒業論文については、文字数の上限・下限は設定しません。ただし、「課題と視角」、「先行研究整理」、「本論」を兼ね備え、かつ、社史や自治体史

の引き写しにとどまらない、これまでの先行研究に対してわずかであっても、新しい知見を盛り込んだ、オリジナリティのある卒業論文を執筆して下さい。「個別演習」においても最低3回の卒業論文に関する報告(前期・夏合宿・後期)を行い、修正・再調査・再検討を経て卒業論文を完成させます。

 [参照ホームページ](#)

 [メールアドレス](#)

yamamoto@ec.kagawa-u.ac.jp